

## 2016年度（2016年4月1日～2017年3月31日）

### 特定非営利活動法人 ぐらす・かわさき 活動計画

#### ■2016年度の方針

2016年度は第5期中期計画（2016～2018）がスタートします。「メサ・グランデ」は創業支援のインキュベーションの場・食と農の地域交流拠点としての役割から飛躍し、多様な人の居場所、「地域活動支援センター」として新たに出発します。これまでぐらす・かわさきの目指してきた赤ちゃんから高齢者まで、障がいがある人もない人も、さまざまな人たちが出会える地域の居場所づくり、川崎の農ある暮らしを持続させる地産地消の取り組み、持続可能な多様な働き方を具現化できる場として、飛躍します。スタッフ体制も強化し、主に精神障害のある人の居場所として、既存の事業と並行して取り組みます。「メサ・グランデ」を核として、川崎市や他の中間支援組織と連携し、セミナー、インターンシップ、相談窓口事業などを積極的に行い、地域をよくする活動をしたい人材の育成に取り組みます。特にコミュニティカフェの開設支援や空き家活用など、地域課題解決のための事業の立ち上げを伴走支援していきます。また単年度黒字を継続し、持続可能性のある事業展開を進め、常に次の課題に向けての新たなチャレンジを続けます。

「遊友ひろば」は、ボランティアによる運営委員会体制が確立し、ボランティア・商店会等との関係を基軸に、更に地域に愛される場として運営していきます。今後、区画整理事業の進展にともない、移転するか閉鎖するか、利用者と一緒に検討していきます。

子育て支援事業については、川崎市地域子育て支援センター「おとお」は地域住民を新たにスタッフに投入し、新規メンバーに運営を引き継ぎ、受託を継続します。また地域の関心のある人を核にして新規に枳形中学校の寺子屋事業を川崎市より受託し実施します。

会員については、4月末時点で16年度からの新規で、正会員個人が5名、正会員団体が2団体、賛助会員が1名既に入会してくださっていますが、今年度はさらに新規の会員勧誘を行います。

#### ■2016年度事業内容

##### （1）市民活動を支援するための事業の企画・実施（定款第5条(1)事業規模 460,000円

###### ① さまざまなグループへの参加と応援

これまで同様、市民活動グループとのネットワークを広げ、市民活動がより活発になるよう参加し応援していきます。

- ・「多摩丘陵緑地保全ネットワーク（通称たまよこネット）」会員として参加（江田）
- ・「教育に憲法を生かす川崎市民の会」会員として参加（江田）
- ・「かながわ生き生き市民基金」評議員として参加（江田）
- ・「地域通貨たま運営委員会」事務局として参加（江田）
- ・「たちばな農のあるまちづくり推進会議」副委員長・監事として参加（田代・吉田）
- ・「NPO法人セカンドリーグ神奈川」理事として参加（田代）
- ・「かわさき市民しきん」代表理事・理事として参加（広岡・江田）

他にも地域の市民や活動グループからの呼びかけがあった場合は、できるだけ関わっていきます。

※「たちばな農のあるまちづくり推進会議」からはさんの市のコーディネートと直売所マップ製作を受託予定です。

## ② 他団体に団体会員としての参加

○次の団体に団体会員として登録し、主に広報協力、情報交換などを行います。

「川崎 NPO 法人連絡会」「NPO 法人フリースペースたまりば」・「NPO 法人ワーカーズコレクティブ協会」「NPO 法人アクションポート横浜」「NPO 法人まちづくり情報センター神奈川（アリスセンター）」「NPO 法人たすけあい多摩」「川崎商工会議所」「登戸東通商店会」「新城南口商店会」「川崎地域エネルギー協議会」

○次の団体に賛助会員として登録し、協力します。

「一般財団法人かわさき市民しきん」

○また、次の団体に協力団体として参加します。

「福島の子どもたちとともに川崎市民の会」

## (2) コミュニティビジネス (CB) を支援するための事業の企画・実施 (定款第5条(2))

### ①メサ・グランデ CB 事業

(担当理事：田代 スタッフ：田代・岩渕・吉田) 事業規模 1,200,000 円

メサ・グランデのスペースを有効活用し、開設時以来取り組んできた、ワンデイシェフや貸しキッチン・貸しスペース事業を通して、コミュニティビジネスの創業や継続の支援を行います。「川崎市認定創業支援事業」に位置付けられているので、他の中間支援組織らと連携し、起業講座・交流会等の会場としての利用を促進していきます。昨年に引き続き日本政策金融公庫さんとの連携で「cafe の学校 in かわさき」を開催します。

### ②川崎市コミュニティビジネス振興事業

(担当理事：竹林・田代 スタッフ：田代・広岡・吉田) 事業規模 3,900,000 円

市民のコミュニティビジネスやソーシャルビジネスに対する関心を高め、それらに就業・創業したい人や、すでにそれらの事業を行っている事業者への支援等を通して、市域でのコミュニティビジネス、ソーシャルビジネスの振興を図るため、川崎市の委託を受け、コミュニティビジネス振興事業を実施します。川崎市内のコミュニティビジネスの実態調査、連続起業講座、相談窓口の業務を行います。

「メサ・グランデ」という常設の場を活かし、起業実績を増やすことに注力します。

■相談対応数の目標件数：96 件、起業目標数：5 件

## (3) 子育てを支援する場所の運営及び関連事業の企画・実施 (定款第5条(3))

### ①川崎市地域子育て支援センター「おおと」 事業規模 1,917,000 円

(担当理事：広岡・池島、スタッフ：本江・堀・上村・藤崎)

中原区の委託を受け、大戸こども文化センター内で、週3日午前中、未就園児とその保護者向けのサロン事業「おおと」を実施します。地域に根ざしたサロン、当事者のお母さんたちが主体的な関わり方ができるようなサロンの運営を目指します。地域住民である新規スタッフによる体制の初年度となるので、これまでの成果を引き継ぎつつも、新メンバーが積極的、主体的に動ける体制を作ります。中原区子育て支援会議、中原区子ども総合支援連携会議等へ参加し、地域の子育て支援情報の収集と発信、連携も行います。将来的に運営グループが自立することを目指します。

## ②川崎市教育委員会「地域の寺子屋事業」(柘形中学校) 事業規模 997,000円

(担当理事：池上・薬袋、スタッフ：池上・池田・小澤・早瀬・吉田美穂子・金谷・前川・渋谷・吉越・谷口)

「地域の寺子屋事業」は、「子ども達の学ぶ意欲の向上や豊かな人間性の形成」「地域ぐるみで子どもの教育、学習をサポートする仕組みづくりによる地域の教育力向上」「地域人材の知識と経験を活かした、多世代で学ぶ生涯学習の拠点づくり」を目標に、川崎市が2014年度からスタートした事業です。ぐらす・かわさきとしては今年度より新規受託となります。他の受託団体は小学校での実施がほとんどですが、中学校では菅生中学校（「地域の寺子屋事業」開始前から自主運営）に続く2例目の新たな試みです。

○コンセプト … 子どもたちが主体的に学び合うための仲間づくり・姿勢づくり

○実施内容

- ・学習会：定期テスト前の放課後などに集中実施します。定期テストの過去問題や各自の取り組みたい自由課題を題材として、おもに定期テスト対策の学習会を実施（参加費無料）。子どもたちが互いに助け合いながら能動的に学ぶ姿勢が身につくように、地域の大人や大学生などがサポートします。
- ・体験活動・世代間交流：定期テスト最終日等に年5回程度実施します。子どもたちの要望を考慮し、ボードゲームイベントなど、学校を離れて特色ある活動を実施します（参加費を徴収）。

## (4) 市民が交流する場所の運営及び関連事業の企画・実施 (定款第5条(4))

### ①地域活動支援センター メサ・グランデ事業

事業規模 23,100,000円 (内補助金13,100,000円・売上9,500,000円)

(担当理事：田代・小林、スタッフ：岩淵・前田・吉田・新堀・青木・清水)

食と農の地域交流拠点としての役割から飛躍し、多様な人の居場所、「地域活動支援センター」として、1年目の活動となります。利用者さんはゆったり過ごしたり、カフェの手伝いをしたり、様々な形で地域社会とつながりが持てる場に育てていきます。そのような居場所を支える仕掛けとして、川崎の農ある暮らしを持続させる八百屋の取り組み、野菜たっぷりの食事の提供もさらに質を高め、売り上げ増を図ります。具体的には、パーティや野菜のセット・弁当を積極的に販売していきます。補助金に甘んじず、利用者に工賃という形での還元をしていくためにも、またスタッフの多様な働き方の実現に向けても取り組んでいきます。

また、他の就労支援事業所等からの引きこもりや障害など困難を抱えた人の就労研修としての場としても引き続き活用してもらい、連携体制を築いていきます。

昨年に引き続き、パルシステム神奈川ゆめコープの助成金を活用し、「縁農」を月に2回程度実施していきます。「うたごえサロン」「梅ちゃん先生の暮らしごと相談会」も昨年に引き続き開催してきます。さらに「めさみーる+ (プラス)」と題して、月に1回、地域の誰でもが共に食事ができるイベントをボランティアとカンパにより連続開催し、社会の課題に迅速に対応してきます。

### ②遊友ひろば事業 (担当理事：池上・町田、運営委員：池上・町田・瀬川・鈴木俊輔・粕谷・鈴木健介) 事業規模 3,590,000円

「遊友ひろば」を、場の運営に関心のある有志により、運営していきます。幅広い世代の住民の交

流を促進しコミュニティを活性化するため、前年までに引き続き、以下のような事業を実施します。

- 地域住民等への活動場所の提供 担当ボランティア：池上・秋山
- 健康麻雀 担当ボランティア：瀬川・町田・長谷川・宮下・馬上・盛澤
- 親子ひろば 担当ボランティア：粕谷・秋山・中野・平田
- 土井さんのオーガニック料理教室 担当ボランティア：町田・宮下
- 寺子屋 担当ボランティア：小野・川口・高崎・徳田・野口・町田
- 学習会・講座の企画・運営
- 商店街活性化のための活動

貸スペースは新規需要（各種会合など）を発掘し売り上げ強化を図ります。会場内のチラシ管理の効率化と閲覧性向上により快適性を向上させます。健康麻雀は特に金曜日は、参加者・ボランティアの増員に向けて取り組みます。寺子屋は生徒同士の交流を図り、居場所としての役割を強化していきます。学習会は会員の皆さまから社会・生活上のテーマを募集し、協力して開催していきます。

また、ボランティア運営体制の更なる充実を図ります。区画整理事業の進展にともない、情報収集を積極的に行い、利用者ともしっかりと協議の上、今後の方針を検討します。

## （５）以上の事業に関わる調査・研究及び情報の収集・提供（定款第5条(6)）

### ① 広報（担当理事：江田・広岡、担当スタッフ：田代・広岡・吉田）事業規模 700,000円

事務局人員体制が厳しい中、ぐらすレターは前年同様年間3回の発送とします。6月（総会報告、今年度事業の紹介など）、11月（中間報告など）、3月（下半期の報告、総会のお知らせなど）。事業報告のほか、会員からの投稿を掲載し、会員や関係者に情報を提供します。WEB版への移行を更に進めると同時に、発送先リストを見直します。ホームページ、ブログ、フェイスブックページをさらに活用していきます。

### ② 講座開催・講師派遣

新規として「神奈川コミュニティカレッジ」で「空き家を活かそう！まちの交流拠点プランニング」と題した連続講座を企画・運営します。またNPO法人セカンドリーグ・神奈川が企画・運営する同カレッジの連続講座に講師としてスタッフを派遣します。

また、KS ソーシャルビジネスアカデミーの講座にも今年もスタッフを派遣します。

他にも依頼があればスタッフや役員を講師として派遣し、コミュニティビジネスや市民活動の促進を支援します。

### ③ 行政などに関わる委員会への参加

神奈川県住宅政策懇話会（田代）